

## 戦時下における日本の厚生運動 —厚生大会（1938-1940）を中心として—

都筑 真・浅野哲也・村井友樹・佐藤 亮・大熊廣明

### The Recreation Movement in Wartime Japan -Focusing on the Japanese Recreation Conventions (1938-1940)-

TSUZUKU Makoto, ASANO Tetsuya, MURAI Yuki, SATO Ryo and OKUMA Hiroaki

#### Abstract

The purpose of this study was to clarify the actual situation of the Japanese recreation conventions (1938-1940) in wartime and examine the physical activities in these conventions. The result of the examination of this study was as follows:

Training mind and body and cultivating sentiment by good use of leisure was the purpose of the recreation movement in Japan. Taking this purpose into consideration, The Japanese recreation association held the Japanese recreation conventions with Tokyo, Nagoya, and Osaka City. The discussion and research about the policy of the recreation movement counted in each convention. The lectures and sectional meetings of each convention acted as a place to discuss it. The Physical activities were not necessarily considered as the key task of the recreation movement here.

After 1939 the physical activities in the recreation conventions changed in response to the notice of the Ministry of Education and the mass gymnastics incentives by the Ministry of Health and Welfare. Mobilizing more people to mass gymnastics and mass marches indicated the intentions of the Japanese recreation association and the Ministry of Health and Welfare to control people's body and enhance national awareness.

It can be said that the physical activities in the recreation conventions meant suiting people's mind and body to the war regime by the leisure activities centering on mass gymnastics and mass marches.

キーワード：厚生運動、日本厚生大会、日本厚生協会、戦時下の体育活動

#### 1. はじめに

##### 1-1. 研究の目的

1932年のロサンゼルスオリンピックと同時期に、同市で第一回世界レクリエーション会議が催された。続く第二回は1936年にドイツのハンブルクで開かれ、その折、第三回を1938年にイタリアのローマで、第四回を1940年の東京オリンピックに合わせて日本で開くことが決定された。この世界レクリエーション会議の

日本開催が契機となり、1938年4月に日本厚生協会が発足し、同協会は日本の厚生運動の中心となっていった。厚生運動は1930年代後半から1940年代前半にかけて展開され、戦時下の状況に余暇生活の健全化や健全娯楽の普及によって対応しようとしたレクリエーション運動でありつつも、心身鍛錬や体力の強化といった体位向上運動の性格を持ち、体育活動もその範疇に収めるものであった。

日中戦争の長期化により東京オリンピックとともに世界レクリエーション会議も中止となり、日本厚生協会の設立当初の目的は消滅したが、代わって同協会の最大の事業となったのは日本厚生大会の開催であった。第一回は東京(1938)、第二回は名古屋(1939)、第三回は興亜厚生大会と銘打って大阪(1940)で、さらに1942年には日本厚生協会の主催ではなかったが、満州で東亜厚生大会が開催されている。しかし、これらの厚生大会についてはこれまで十分に明らかにされていない。そこで本研究では、日本厚生大会の実態を明らかにし、その中で体育活動がどのように位置づけられ、展開されたのかを考察していくことを目的とする。

## 1-2. 先行研究の検討

厚生大会については長らく、日本厚生協会の後継団体である日本レクリエーション協会の協会史や、レジャー研究の中で叙述されてきた。これらは、戦後のレクリエーション運動の前史として、厚生大会をはじめとした厚生運動に着目している。

『日本レクリエーション協会二十年史』では、第三回大会の参加国や招聘国、開催趣旨については明らかにしているものの、それ以外では、講演会や分科会など各厚生大会のプログラム名を列挙するに留まり、各大会の開催経緯や趣旨、参加者、各プログラムの内容については殆ど明らかにされていない<sup>1)</sup>。

『日本レクリエーション協会三十年史』では、第一回と第二回大会については開催されたことのみを指摘するに留まり、第三回大会についても大東亜共栄圏と枢軸国であるドイツとイタリアから代表者を招いて盛大に行われたことを述べるに留まっている<sup>2)</sup>。

石川弘義は、日本厚生協会の機関誌『厚生の日』の記事分析によって、厚生運動の時期毎の傾向を抽出していくなかで、第三回大会に着目している。彼は、『日本レクリエーション協会二十年史』に依拠しながら、第三回大会の参加国やプログラム名を列挙するとともに、大会の特別講演と分科会研究報告を取り上げている。そしてこれらから、「収斂」と「拡散」という1940年の厚生運動の傾向を読み取っている<sup>3)</sup>。

また日本近代史研究では、藤野豊が戦時下の日本ファシズムの特質を探る中で、厚生大会について言及している。彼は、各大会の参加者国や参加者数、演技プログラム名を記すとともに、各大会の厚生大臣諮問答申、講演会や分科会の特徴を示している。それによれば、厚生大臣諮問答申や講演会では将来の厚生運動の方向性が示されるものの、分科会では多様な厚生運動論が展開され、厚生運動の具体像や統一的な方向性は示されなかったという。しかし講演会や分科会の中で、体育活動についてどのような言及がなされ、厚生運動において体育活動をどのように位置付けていたのかについては述べられていない<sup>4)</sup>。

そして体育史研究では、今村嘉雄が『日本体育史』の中で厚生大会について言及している。しかし通史という性格からか、各大会の演技プログラム名を列挙し、これらが時局の影響を強く受けていたことを指摘するに留まっている<sup>5)</sup>。また近年では、佐々木浩雄が、戦時下で国民が巨大イベントとしての集団体操によって動員されていく過程を描く中で、その過程の一部として第三回大会に着目し、同大会の演技プログラムを紹介している。そして彼は同大会を「集団体操演技と合唱に彩られた、ほとんど体操大会とといっていい内容であった」と特徴付けている<sup>6)</sup>。

以上のことから、日本厚生大会に関する先行研究では、各厚生大会の開催経緯や趣旨、日本厚生協会幹部の大会に対する評価、そして講演会や分科会での体育活動に関する言及については殆ど明らかにされておらず、また演技プログラム中でどのような体育活動が展開されたのかについても十分に明らかにされていない。

## 1-3. 本研究の課題と方法

先行研究を検討した結果、本研究では、1) 日本厚生大会の主催団体である日本厚生協会について概観した上で、2) 各厚生大会の開催経緯や趣旨、3) 大会日程、4) 講演会や分科会での体育活動に関する言及、5) 演技プログラムにおける体育活動、6) 大会に対する評価等を明らかにすることによって、日本厚生大会の中で体育活動がどのように位置づけられ、展開されたのかを考察し、戦時下における厚生大会の

体育活動の意味を問うていく。

なお本研究では、主たる史料として以下のものを用いる。1) 日本厚生協会や、同協会とともに日本厚生大会を主催した各都市が編纂した『厚生大会報告書』や『厚生大会誌』、2) 日本厚生協会の機関誌『厚生の日』、3) 『東京朝日新聞』、『読売新聞』。

#### 1-4. 本研究の意義

戦時下における日本の体育活動についてはこれまで、「心身一体の原理」の強調、「団体的行動ないし団体訓練の重視」、「闘争本能に基づく敢闘精神の養成の強調」と特徴づけられ<sup>7)</sup>、また「基本的には明治以来の教練と武道と、そして形式体操による集団訓練の再編・強化」と捉えられてきた<sup>8)</sup>。しかしながら、これらは主として学校体育から導き出された特徴であり、学校体育に包摂されない者たち（工場労働者、会社従業員、家庭婦人など）の体育活動、つまり社会体育を対象としていない。本研究で取り上げる厚生大会の参加者の多くは、学校体育の枠外にいる者たちである。したがって、彼らが参加する厚生大会の体育活動は、戦時下の社会体育の様相を知る上での手がかりとなるであろう。

## 2. 日本厚生協会についての概観

### 2-1. 日本厚生協会創設の経緯

厚生運動の中核団体となる日本厚生協会設立の直接的契機は、1940年に東京オリンピックとともに、第四回世界厚生会議を日本で開催することが決定したことにあつた。この会議の受け皿となる国内協会の結成が先決問題となり、協会設立の準備は東京市主事の磯村英一を中心に進められていった。この過程で、レクリエーションの訳語に「厚生」という語が当てられた。

磯村によれば、「或者は「奨健」と名付け、或は「慰安」「慰樂」又は「余暇利用」「余暇善用」等々の名前も出たのであるが、何れも本運動の一部の内容を示すに過ぎない」ことから、設立間もない厚生省に因んだ「厚生」と決定されたという<sup>9)</sup>。こうして、1938年4月25日に日本厚生協会の発起人総会・創立総会が開かれ、日本厚生協会が誕生したのであった。同協会は厚生省の外郭団体となり、協会の事務所は厚生省体力局体育課内に置かれた。厚生省体力局の所管業務は体力向上の企画および施設に関する事項、体力調査および「体育運動」に関する事項、そして妊産婦、乳幼児および児童の衛生に関する事項であり、同局は文部省所管の学校体育以外の体育活動を所管することとなった<sup>10)</sup>。

### 2-2. 日本厚生協会の加盟団体および主要役員

表1に示したように、日本厚生協会には大都市、産業団体、青年団体、体育団体、観光関係団体、公園団体等が加盟した。このことから、日本厚生協会は、従来個別にレクリエーション活動を行っていた諸団体を厚生運動の実質的な担い手としつつ、その総合化を目指していたといえる。そして表1で示した厚生協会の加盟団体や、表2で示した同協会の主要役員の所属から、厚生運動の主な対象が大都市住民、労働者、青少年であることがみてとれる。また、厚生協会の役員の多くが大都市市長や官公庁の役人で占められる中、民間団体である大日本体育協会からは下村宏会長と末弘巖太郎理事長の2名が理事に就任し、同協会は厚生協会の中核団体の一つとなった。大日本体育協会は1938年初頭に、「国民体育」振興の具体案の一つとしてレクリエーション運動を取り上げていたのである<sup>11)</sup>。

表1 日本厚生協会の加盟団体

東京市	大阪市	名古屋市	京都市	神戸市	横浜市	日本旅行協会	日本観光連盟	日本文化中央連盟	日本山岳会
日本基督教青年会	東京基督教女子青年会	日本児童遊園協会	大日本紡績連合会	大日本海洋少年団	大日本体育協会	大日本連合青年団	大日本連合婦人会	大日本武徳会	全国産業団体連合会
大日本少年団連盟	大日本女子連合青年団	講道館	公園緑地協会	国立公園協会	帝国少年団協会	協調会	勤労者教育中央会	奨健会	修養団
生命保険会社協会									

出典：磯村英一（1939）厚生運動概説。常盤書房，52頁より作成

## 2-3. 日本厚生協会の目的と事業

日本厚生協会は、「国民生活ヲ刷新シ特ニ余暇ノ善用ニ依リ心身ヲ練磨シ情操ヲ陶冶シ以テ国民ノ健全ナル心身ノ保全ヲ図ルコト」を協会の目的として掲げ、「余暇ノ善用」によって「心身ヲ練磨」し、「情操ヲ陶冶」することで、国民の心身を健全に保全していくことを目指していた<sup>12)</sup>。そしてこの目的を達成するための事業として「関係団体ノ連絡協調」、「国民ノ健全ナル心身保全ニ関スル研究及奨励」、「世界厚生会議ニ関スル事項」、「其他必要ナル事業」を行うとしている<sup>13)</sup>。これらの事業の内、日本厚生協会が真っ先に取り組んだのは、同協会設立の契機となった世界厚生会議の開催準備であった。しかし日中戦争の長期化によって、東京オリンピックとともに、大阪で開催を予定していた世界厚生会議も中止となった。この世界厚生会議に代わる事業として、1938年から実施されたのが日本厚生大会であった。

## 3. 第一回日本厚生大会（1938年）

### 3-1. 開催の経緯及び趣旨

日本厚生協会成立から半年後の1938年11月1日に、第一回日本厚生大会が東京市で催された。この大会の開催経緯について、大会準備委員長の児玉政介は、大会総会の中で以下のように述べている：

本年〔1938年〕四月二十八日に日本厚生協会の創立を見まして直ちに羅馬に開催せられます第三回世界厚生会議に代表一行を派遣致しまして、来る二千六百年に大阪市に於きまして世界厚生会議を開催する予定を以て準備を致して参りました折からオリンピック取り

止めと一緒に世界厚生会議も中止の已むなきに立ち至つた次第であります。併し乍らたとひ国際会議が一時取り止めになつたと致しましても、我国現下の状況より致しましてもこの国民厚生運動なるものを愈々確立して大いに人的資源の確保に邁進すべき秋であると信じて、理事会に諮り十月の評議委員会に於きまして東京市と共同主催の下に開催することに決定相成つた次第であります。そこで日本厚生協会に於きましては早速準備委員会を組織致し、一面に於きまして厚生大臣の指導を仰ぎ、又準備事務に関しまして東京市の協力を得て事務の進捗を計り漸く本日の運びに立至つた次第であります<sup>14)</sup>。

日本厚生協会が開催準備を進めてきた1940年大阪での第四回世界厚生会議は、東京オリンピックとともに中止となったが、「人的資源の確保」という日本の喫緊の課題のために「国民厚生運動」を確立すべきと日本厚生協会は考え、日本厚生大会を開催するに至ったのであった。そして、この大会は以下のような趣旨の下で開催された：

凡ソ厚生運動ノ目標ハ国民ノ日常生活ヲ刷新シ特ニ余暇ノ善用ニ意ヲ注ギ健全ナル慰楽ヲ勧奨シ心身ノ練磨ニ資シ情操ヲ醇化シ以テ国民親和ノ実ヲ挙グルニアリ、之レ畢竟国民ノ資質ノ向上ヲ図リ国本ヲ涵養スル所以ニ外ナラズ

惟フニ我国ハ現下未曾有ノ非常時局ニ際会シ挙国聖戦ノ遂行ニ邁進シツツアリ事変ノ長期態勢化ニ伴ヒ今ヤ人的資源ノ確保ハ国家緊切ノ問題トナレリ。此ノ秋ニ当リ適正ナル国民

表2 日本厚生協会の主要役員（1939年10月時点）

会長	伍堂卓雄（商工・農林大臣）
理事長	佐々木芳遠（厚生省体力局長）
理事	佐々木芳遠、市村慶三（京都市長）、坂間棟治（大阪市長）、青木周三（横浜市長）、勝田銀次郎（神戸市長）、縣忍（名古屋市長）、徳川家達（協調会会長）、下村宏（大日本体育協会会長）、大久保利武（勤労者教育中央会長）、栗原美能留（大日本青年団）、吉阪俊蔵（商工組合中央金庫理事）、末弘巖太郎（大日本体育協会理事長）

出典：厚生の日。1939年10月号，178-179頁より作成

厚生ノ途ヲ講ジ人的資源ノ培養育成ヲ図ルハ  
国家百年ノ大計ニ副フ所以ノモノナルノミナ  
ラズ亦正ニ銃後国民ノ重大ナル責務ナリ  
仍テ之ガ根本的実行方法ヲ討議検討シテ国策  
ニ寄与スルト共ニ之ヲ国民ニ周知セシメンガ  
為メ本大会ヲ開催スルモノナリ<sup>15)</sup>

「人的資源ノ確保」が「国家緊切ノ問題」と  
なる中で、「余暇ノ善用」によって心身を練磨  
し、情操を醇化することが「国民ノ重大ナル責  
務」となっていた。こうした中で、余暇善用  
の方法を討議・検討し、その方法を国民に周知  
するために、第一回日本厚生大会は開催された  
のであった。

### 3-2. 大会参加者、参加国

第一回大会の参加者は「各地方の体育関係者、  
諸会社工場等、〔日本厚生協会の〕各加盟団体」  
の代表者 350 名であったと『東京朝日新聞』は  
報じている<sup>16)</sup>が、『第一回日本厚生大会報告書』  
には総会出席者名簿のみが掲載されている。こ  
の名簿によれば、総会出席者は 282 名で、その  
内、約 6 割が日本厚生協会と加盟団体の代表者  
であった<sup>17)</sup>。また日本以外では、満州国から 4  
名が参加している<sup>18)</sup>。

### 3-3. 大会日程

第一回日本厚生大会は以下の表 3 で示したよ  
うに、分科会報告、厚生大臣諮問事項付議・答  
申、次回開催地の決定を行う「総会」、体育活

表 3 第一回日本厚生大会日程

日	時	催物	場所	内容
11 月 1 日	午後 6 時-9 時	厚生の夕	軍人会館	講演会、演技（一般厚生の夕）
11 月 2 日	午前 9-12 時	開会式	日本青年館	
	午前 9-12 時	総会	日本青年館	厚生大臣諮問事項付議ノ件 分科会設置ノ件 第三回世界厚生会議報告ノ件
	午後 1-4 時	第一分科会	同	厚生運動ノ指導精神ト其ノ分野
11 月 3 日	午前 9-12 時	第二分科会	同	戦時体制下ニ於ケル慰楽問題
	午前 9-12 時	第三分科会	同	商店法ノ実施ト余暇善用 銃後工場鉱山従業員ノ厚生問題
	同	演技	日比谷—宮城前— 靖国神社	行進
	午後 1-4 時	総会	日本青年館	分科会報告 厚生大臣諮問事項答申 次回開催地ノ決定
11 月 3-6 日		演技	神宮外苑競技場他	国民精神作興大会
11 月 4 日	午後 6 時-	同	日本青年館	婦人厚生の夕
11 月 5 日	午後 0-6 時	同	神宮外苑野球場	市民厚生軟式野球大会
11 月 6 日	午前 8-午後 5 時	同	神宮外苑相撲場	市民厚生相撲会
	午前 9-午後 5 時	同	神宮、早大、帝大、 月島球場	市民厚生軟式野球大会
11 月 7 日	午前 9-午後 5 時	同	神宮、早大球場	同
11 月 8 日	午前 9-午後 5 時	同	同	同
11 月 9 日	午後 1-5 時	同	神宮外苑野球場	同
11 月 10 日	午後 2-5 時	同	同	同

出典：日本厚生協会編（1939）第一回日本厚生大会報告書。日本厚生協会、1-2 頁；高岡裕之編（2001）  
資料集 総力戦と文化 第 2 巻。大月書店、5-6 頁より作成

動を行う「演技」、そして厚生運動の理論や研究を発表する「分科会」で構成されている。

### 3-4. 講演会及び分科会での体育活動に関する言及

厚生会の夕で行われた講演において、大日本女子連合青年団理事長の吉岡彌生は、「筋肉を使い」体位向上を図ることを婦人に求め、帝国教育協会会長の永田秀次郎も娯楽を通じて、楽しみながら「今日より更に一層働らいてゆけるような体力を養うことが厚生運動」と述べ、体位向上を厚生運動の中心に据えていた<sup>19)</sup>。

また分科会では、日本厚生協会幹事である吉阪俊蔵や磯村英一が心身の鍛錬を厚生運動の目的として強調したが、日本厚生協会理事の末広巖太郎は企業の厚生施設や共済組合の実情を示しながら心身鍛錬を重視する傾向を批判し、関東学院教授の白山源三郎も心身鍛錬以上に生活内容の豊富化に重点を置くことを求めた。また、日本労働科学研究所の暉峻義等は川崎や鶴見の労働者住宅の事例を挙げながら、「労働者の住宅を放つて置いて、余暇を善用しろ、体育を行へ、と言つて見ました所で、本当に労働者の体位が向上するでありますか」と述べ、余暇善用の前提となる条件の整備を求めた<sup>20)</sup>。

このように第一回日本厚生大会の講演や分科会では、厚生運動の重点が必ずしも体育活動に置かれておらず、厚生運動の目的が報告者によってまちまちであり、不統一であることが浮き彫りとなった。

### 3-5. 演技プログラムにおける体育活動

大会の演技プログラムでは、一般厚生会の夕、行進、市民厚生軟式野球大会、市民厚生相撲大会、国民精神作興体育大会、婦人厚生会の夕が催されている。これらの活動について詳述した史料は管見の限り見当たらないが、日本厚生協会幹事である磯村英一の著書や『読売新聞』、『東京朝日新聞』を手掛かりに、これらの活動を紐解いていく。

まず一般厚生会の夕が11月1日午後6時から軍人会館で催され、ここでは、YMCA 体育部の「マッetwork」、小学校の女子児童による「縄跳び体操」、「各工場の男女工」による「産業体操」や「保健体操」、全日本体操連盟（1930年

創設）が推奨した団体によって「各種体操」行われた<sup>21)</sup>。

11月3日には午前9時より、日比谷から宮城前を経由して靖国神社へと向かう行進が実施されているが、参加団体については不明である。

そして同日から6日まで催された国民精神作興体育大会は、大日本体育協合理事長の末広巖太郎が明治神宮国民体育大会の「予行演習」と位置づけたものであり、東京と関西地方（11月20-23日）で実施されたが、東京での大会が日本厚生大会の一プログラムに組み込まれたのであった。表4に示したように、国民精神作興体育大会では体操、陸上競技、球技、格闘技など28種目が実施され、明治神宮国民体育大会の「予行演習」に相応しい大規模な総合体育大会であった。集団体操の実演、伊勢神宮から明治神宮までの区間を231名が継走した聖矛継走、男女5000名が参加した体育大行進など集団参加型の種目や、軍事訓練の意味合いが強い国防競技などが実施されているものの、全体としては競技色の強い大会であった。

また11月4日には、婦人厚生会の夕が東京市内の職業婦人を率いる団体の協力を得て、日本青年館で催されている。ここでは「スポーツ、舞踏、合唱、合奏、詩吟、行進」が実施されたと磯村は述べているが、これらの詳細については明らかにしていない<sup>22)</sup>。

11月5日からは、神宮外苑野球場、早大球場、帝大球場、月島球場で市民厚生軟式野球大会が開催され、この大会は10日まで6日間続いた。大会には、396チームが参加した予選を経て、東京市35区の代表チームが出場した。磯村によれば、この大会はトーナメント戦によって強いチームを単に決定するものではなく、「厚生運動の趣旨に合致するものを摘出する」ための大会であり、選手資格や試合進行の態度によって試合中に除外されたチームも多かったという<sup>23)</sup>。

11月6日には、市民厚生相撲大会が神宮外苑相撲場において、東京市35区対抗のトーナメント形式で、工場の部と青年の部の団体戦、個人戦がそれぞれ実施された<sup>24)</sup>。磯村によれば、この大会では個人の優勝は重視されず、「あくまで指定区を代表とする組織の共同体の上に目標」が置かれ、東京市各区の結束を強めること

表4 国民精神作興体育大会の実施種目

実施種目	期日	内容
体操	11月3日 11月4-6日	体操祭、実演会 第9回全日本体操個人選手権
庭球	11月3-6日	第17回全日本選手権 第8-11日
重量挙	11月3日 11月5日	自由扛挙競技大会 模範演技大会
自転車	11月3-4日	全日本選手権 第1-2日
柔道	11月3日	都下大学専門学校選抜優秀高試合
行進	11月3日	体育大行進
ホッケー	11月4日	第5回東西対抗ホッケー試合
送球	11月4日	送球男女紅白試合
レスリング	11月4日	早慶新人レスリング対抗試合
野球	11月4日	東都大学リーグ紅白試合
ラグビー	11月5日 11月6日	関東7大学ラグビー 復活第2回戦
陸上競技	11月4-6日 11月5-6日 11月6日	聖矛継走 東日本選抜男子陸上競技 第3回関東女子中等学校陸上競技選手権大会
排球	11月5日 11月6日	女子番外試合 関東大学第2位選抜対抗、少年少女総合体育大会
籠球	11月5日 11月5-6日 11月6日	男子中等学校選抜試合 関東大学籠球リーグ1部・2部 実業団選抜籠球、少年少女総合体育大会
フェンシング	11月5日 11月6日	選抜模範フェンシング試合 模範試合
氷上ホッケー	11月5日	5大学リーグ戦氷上ホッケー競技
拳闘	11月5日	東西対抗拳闘試合
相撲	11月5日	関東学生相撲個人選手権
蹴球	11月5日	青年団対抗蹴球戦
卓球	11月6日	全東京高商リーグ戦
射撃	11月6日	国民訓練射撃大会
国防競技	11月6日	行軍競走、手榴弾投、担架継走、団体障害物競走、ガス防攻演習
馬術	11月6日	白馬一般障碍、学生障碍飛越、白馬大障碍
カヌー	11月6日	第1回全日本選手権カヌー競技大会
漕艇	11月6日	漕艇競技
ヨット	11月6日	ヨット競技
順送球	11月6日	少年少女総合体育大会
置換継走	11月6日	少年少女総合体育大会

出典：東京朝日新聞、1938年11月3-7日付より作成

に重きが置かれたという<sup>25)</sup>。

第一回日本厚生大会の演技プログラムでは、集团体操や集団行進などが実施されているが、トーナメント形式の野球大会や相撲大会、そして多種多様な競技種目に彩られた国民精神作興体育大会が催されていることに鑑みれば、全体的には競技志向の強いプログラムであったといえる。

### 3-6. 大会に対する評価

11月3日に開かれた総会の開会挨拶の中で、厚生次官の児玉政介は第一回日本厚生大会を総括している。彼は、厚生大臣諮問に対して戦時下の厚生運動の方法を開明したことや、各分科会において各種厚生問題を詳細に検討したことは大会の大きな収穫であったと評価しつつも、産業界の変遷や社会生活の推移に伴う厚生運動の科学的研究、組織的な検討が欠けていることを指摘した。それ故、彼は厚生運動が今なお啓蒙の時代にあると見なし、厚生運動を実践の運動とすることに努めるよう関係各位に求めたのであった<sup>26)</sup>。

## 4. 第二回日本厚生大会（1939年）

### 4-1. 開催の経緯及び趣旨

第一回日本厚生大会の総会において、名古屋市が次回大会の開催地に立候補し、この申請が満場一致で承認され、第二回大会は名古屋市で開催されることとなった。この大会は以下のような趣旨の下で開催された：

我国厚生運動ノ指標ハ国民ノ日常生活ノ刷新ヲ図リ体育ヲ奨励シテ心身ヲ鍛錬シ不道德非衛生的ナル娯楽ヲ排撃シテ健全ナル慰楽ヲ勧奨シ教養ヲ昂メ情操ヲ陶冶シ明朗豁達ノ気風ヲ涵養シ以テ各自ノ職分ニ精励セシムルニアリ

之レ畢竟我国ノ人的資源ヲ拡充強化シ国本ヲ不拔ニ培フ所以ナリ

今や我国ハ未曾有ノ聖戦ニ遭遇シ日夜之ガ目的達成ニ邁進シツツアリ 然レ共今次ノ聖戦ハ前途尚遼遠ニシテ之ニ対応スベキ戦時体制確立ノ為ニハ国民厚生ノ方途ヲ図ルコト愈々緊要トナレリ

此ノ秋ニ当リ国民ノ厚生問題ヲ討議シ其ノ指

導方針ヲ講ズルハ真ニ銃後国民ニ課セラレタル重大責務ナリ

仍テ茲ニ第二回日本厚生大会ヲ開催シ之ガ根本的諸問題ノ討議研究ヲ行ヒ以テ国策ニ寄與セントス<sup>27)</sup>

「聖戦」の長期化が見込まれる中で、これに対応する戦時体制を確立していくために、体育や「健全ナル慰楽ヲ勧奨」することによって心身を鍛錬し、情操を陶冶することで、人的資源の「拡充強化」に寄与する厚生運動の方針を講じることが国民の「重大責務」となっていった。こうした中で、厚生運動の「根本的諸問題」を討議・研究することを通じて国策に寄与していくことが、第二回大会の開催趣旨であった。文言に若干の違いがあるものの、基本的には第一回大会と同様の開催趣旨であったといえる。

### 4-2. 大会参加者、参加国

第二回日本厚生大会の参加者は335名で、日本厚生協会と加盟団体の代表者は全体の約20%、名古屋市の高校・大学関係者、商工会議所や商工業組合の代表者など開催都市の関係者は全体の25%と、大会参加者の半数以上が、厚生協会と加盟団体の代表者や開催都市関係者以外の者であった<sup>28)</sup>。日本以外では、満州国から4名が参加している<sup>29)</sup>。ただし、この数字には、以下に示す演技プログラムの参加者は含まれていない。

### 4-3. 大会日程

第二回大会では、前回大会で行われた「総会」、「講演会」、「分科会」、「演技」プログラムとともに、「映画会」、「厚生施設展覧会」、「施設見学」が新たに加えられていることが特徴的である。

### 4-4. 講演会及び分科会での体育活動に関する言及

厚生の方での特別講演において、日本厚生協会理事で、大日本体育協会会長の下村宏は、体育だけでなく読書、音楽や演劇の鑑賞、キャンプや旅行を通して、精神的にも肉体的にも向上を図ることが厚生運動であると定義し、戦時下の今日では平時以上にこれらの向上に努めるよう聴衆に呼びかけた。そして日本厚生協会会長



で、商工大臣の伍堂卓雄は、高い「国防力」と「経済力」が要求される時局を認識し、「日常生活の刷新」によって「質実剛健の気風を養ひ、又体位を向上すること」を説いた。双方はいずれも、体位の向上を図ることを厚生運動の目的に定めていたが、分科会報告者の主張はこれらと異なっていた<sup>30)</sup>。

分科会では、心身鍛錬による体位の向上よりも、休養、厚生施設の充実、社会制度の改善、衣食住などの生活環境の整備が厚生運動の目的であると唱えられ、余暇善用の活動よりも、その前提条件の整備が求められたのであった<sup>31)</sup>。

#### 4-5. 演技プログラムにおける体育活動

第二回大会の演技プログラムでは、市民厚生大会、市民厚生競技大会並各区厚生大会、厚生の日、体育報国大行進、勤労女子従業員市中大行進が催されている。

市民厚生大会は11月10日午後2時から鶴舞公園運動場で開催された。この大会の模様を日本厚生協会の機関誌『厚生の日』は次のように報じている：

演技はまず、健康報国を表象して市民老若男女一千名のラヂオ体操から始まり大東紡織株式会社的女子従業員五百名からなる「日本産業報国の歌体操」に産業戦士の銃後の意気を示せば、八十名の棒術会員が名古屋の農村に三百年の歴史を有する農民自衛術「棒の手」の演技を行い、真剣乱舞して勇壮観るものをして汗を握らしめた。次で南区国防婦人会員六百名が揃いのエプロン甲斐甲斐しくグラウンドを彩って家庭体操に銃後婦人の意気を示し微笑へましい風景を展開し、市吏員五百名はラヂオ体操、建国体操、名古屋女子青年団員五百名の「民謡体操、愛国行進曲、皇国

表5 第二回日本厚生大会日程

日	時	催物	場所	内容
11月10日	午前10-12時	開会式	名古屋市公会堂	
	午前10-12時	総会	同	厚生大臣諮問事項付議ノ件 分科会設置ノ件
	午後2-4時	演技	鶴舞公園運動場	市民厚生大会
	午後7-9時	講演並映画会	名古屋市公会堂	
11月10-13日		厚生施設展覧会	松坂屋	
11月11日	午前9-12時	第一分科会	名古屋帝国大学 医学部講堂	我国厚生運動の発展形態と 其の動向
	同	第二分科会	同	農村に於ける厚生運動 婦人児童の厚生運動 給料生活者の厚生運動
	同	第三分科会	同	傷痍軍人の厚生問題 時局産業従業員の厚生問題 商工徒弟の厚生問題
	午後1-5時	演技	鶴舞公園運動場他	市民厚生競技大会並 各区厚生大会
	午後6時半-9時	施設見学	名古屋城、 東山動植物園	
		演技	名古屋市公会堂	厚生の日
11月12日	同	総会	名古屋市公会堂	分科会報告 厚生大臣諮問事項答申 次回開催地ノ決定
	午後1-5時	演技	鶴舞公園—護国神社	体育報国大行進
	午後1-5時	閉会式	名古屋市公会堂	
11月13日	午前9-12時	演技	鶴舞公園—護国神社	勤労女子従業員市中大行進

出典：名古屋市編(1940) 第二回日本厚生大会会誌、名古屋市、234-235頁より作成

の母」、日東紡績名古屋工場鼓笛隊の「音楽行進」、三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所青年学校生徒五百名の「工場鉦山体操」、日本毛織女子従業員三百名の「大日本女子青年体操」、愛知時計電機青年学校生徒一千名の「大日本青年体操」を最後に演技を閉じ、午後四時幾多の収穫を収めて閉会した<sup>32)</sup>。

ここでは、棒術の実演や「音楽行進」とともに、8種類の集団体操が約5000人の参加者によって実施されており、多種多様な集団体操が文部省、厚生省、全日本体操連盟などによって考案され、奨励されていく1930年代後半から40年代初頭までの時期の傾向を反映している。

11月11日午後1時から市民厚生競技大会並各区厚生大会が催された。市民厚生競技大会は鶴舞公園運動場で実施され、排球、籠球、ラグビー、軟式庭球の試合や自転車競技が実施されている。排球の女子の部では名古屋専売局対日本毛織、男子の部では愛知時計対三菱の試合が行われ、籠球の試合は市役所と竹生会の間で行われた。自転車競技には一般市民が参加しているが、競技方法などは不明である。ラグビーの試合は、中京実業ラグビー界の重鎮三菱電機と大同製鋼の間で行われている。そして軟式庭球には官庁、会社、工場等から16組が参加し、ダブルスの試合を実施している<sup>33)</sup>。

また各区厚生大会では武道大会と運動会が催されている。武道大会は名古屋市中区道場で開かれ、東、西、中村、中川、熱田、南の各区民が参加している。運動会では、港区民運動会が港橋東電停舊野球場跡で、昭和区御剣連区民運動会が御剣小学校校庭で、そして千種区内山町民運動会が内山町有運動場でそれぞれ実施されている<sup>34)</sup>。しかしいずれの大会の内容も『第二回日本厚生大会会誌』や『厚生の日』には記されていない。

そして同日午後6時から市公会堂で厚生の日が催され、以下の表6に示した演技が披露されている。表6からは、厚生の日が集団体操と武技を中心に構成されていることが分かる。とりわけ、集団体操に関しては市民厚生大会で披露されたものも合わせると12種類もの集団体操が実施されている。

このことは、1937年12月16日に文部次官

から各地方長官宛に通牒された「国民精神総動員ニ際シ体育運動ノ実施ニ関スル件」と無関係でないと思われる。この通牒は、日中戦争の勃発後に「挙国一致」「尽忠報国」「堅忍持久」をスローガンとして戦争遂行のための国民精神の高揚を図る国民精神総動員運動が展開される中で、体育活動のあり方を学校や体育団体に指示するものであった。この中では、「身心ノ修練」とともに「精神訓練」や「国民意識ヲ昂揚振作スルコト」が重視され、「団体訓練トシテ合同体操、体操大会、団体行進等ノ如ク、多人数ノ参加シ得ル集团的体育行事ノ実施ヲ奨励スルコト」や武道の奨励が謳われている<sup>35)</sup>。この通牒に呼応する形で厚生省は国民の体位向上政策の一環として、1939年に「大日本国民体操」、「大日本青年体操」、「大日本女子青年体操」の3種の集団体操を制定し、これらを中心として集団体操を各地で奨励した。市民厚生大会と厚生の日で多くの集団体操が実施されていることや、厚生の日が集団体操と武技を中心に構成されていることは、こうした動向に沿うものであった。

10月12日の午後1時半からは体育報国大行進が実施され、参加者が1万2000人に上る大規模な催しとなった。この行進の模様を『厚生の日』は詳細に伝えている。

時局下銃後市民の健康譜を奏づる市民体育報国大行進は紺碧の空のもと爽かに澄みわたる秋風をうけて一入緊張裡に十二日午後一時半、鶴舞公園に勢揃した。各種運動競技、武道諸団体選手役員、男女学生連区民一般参加者等一万二千人、予想人員を遥かに突破して健康群列美を遺憾なく輝かせながら、体育報国市中大行進は大会諸行事の白眉となって、多彩華麗な厚生大デモンストレーションを挙行した。

当日畏くも東久邇宮殿下御下賜の大日章旗を奉戴し、いとも厳肅莊重なるうちに宣誓式を挙行し、学生プラスバンドを先頭に「国民皆泳」の大旗を真先に押し立て進む水上競技部隊以下の諸団体それぞれ部旗、会旗、優勝旗を先頭にこれに続き、順次に公園を出発した。第一団の運動競技団体は吹奏楽団を先頭に水上競技、硬式庭球、軟式庭球、排球、籠球、ア式蹴球、ラグビー、ホッケー、野球、軟式

野球、卓球、体操、拳闘、登山、スキー、スケート、漕艇、ヨット、陸上競技、自転車、乗馬の二十一団体。第二団は連区体操委員会によって行進がつづけられ、列中モンベ姿甲斐甲斐しい家庭防護群団は時局下らしい雰囲気をはたし、第三団はラッパ部隊の推進する武道団体が柔道、射撃、銃剣術、弓道、角力、薙刀、剣道の順に各々武具をつけ旗を先頭に行進をつづけ、名古屋市商工会議所前で三樹名古屋市助役の視閲をうけ、公園一上前津一栄町一本町を通る長蛇は蜿蜒十数町に亘り健康王国、スポーツ王国の偉容を遺憾なく発揮しつつ絢爛たる行列絵巻を繰り展げ、護国神社にいたり護国の英霊に感謝を捧げて散会した<sup>36)</sup>。

『厚生の日』が報じたように、28もの運動競技団体と武道団体が参加した行進は、行進を

眺める名古屋市民に「健康王国、スポーツ王国の偉容を」示すものであったと思われる。また、行進に参列した家庭防護群団のモンベ姿や武具を身につけた武道団体の姿は、日本が戦時下にあることを名古屋市民に認識させたであろう。

そして大会最終日の11月13日午前9時から、名古屋市内の商店や会社に勤める女子従業員3000名によって勤労女子従業員市中大行進が行われた。鶴舞公園を出発して、市民体育報国大行進と同様のルートを辿りながら、護国神社まで行進している<sup>37)</sup>。

合計1万5000人を動員したこの2つの集団行進も、多くの集団体操が実施された市民厚生大会や厚生の日と同様に、上に示した文部省の通牒に沿うものであった。

#### 4-6. 大会に対する評価

第二回日本厚生大会について、関東学院教授

表6 厚生の日演技内容

1. 体操	イ. 市民家庭体操 南区笠寺連区国防婦人会会員 ロ. 民謡体操 露営の歌、私は南京支那娘 松坂屋 日の丸体操 日東紡績株式会社 日本産業の歌 大東紡績株式会社 第三師団進軍歌、愛国千人針 栄屋 ハ. 大日本国民体操 愛知時計電機株式会社
2. 舞踊並武技	イ. 詩武体操 金州城、進軍歌、落月、日本刀 日本毛織株式会社名古屋工場 ロ. 詩吟並剣武 篠田桜峰先生門下生 ハ. 棒術 竹槍、追込薙刀 弥富連区下山町 モギ、取換薙刀 弥富連区中根町 両刀、鎌術 鍋屋上野町連区 ニ. 柔道 投げの型 米田・谷口先生 ホ. 剣道 大日本剣道の型 浅井・森先生
3. おどり	イ. 軍国子守歌 ロ. ほんとにほんとに御苦労ね 松坂屋 ハ. 船頭可愛や
4. 音楽	イ. 吹奏楽（序曲、十字勲章） 大同製鋼 ロ. 鼓笛隊（女子職場の歌、大陸行進曲） 日東紡績 ハ. 吹奏楽（くろがねの力、陸軍分列行進曲） 大同製鋼、東邦電機、呉羽紡績、岡本工業
5. 合同合唱	愛国行進曲 来場者全部

出典：名古屋市編(1940) 第二回日本厚生大会会誌。名古屋市，201・202 頁より作成

で、日本厚生協会幹事であった白山源三郎は、「全国より集まる府県、市町村若くは産業方面、学界等の、厚生運動、関係者五百余名に及び進展途上にある我国厚生運動に一期を画する有意義な大会ととして滞りなく終了した事は喜びに堪えない」と評価した<sup>38)</sup>。しかし彼は、問題点として、分科会では職場での経験に基づく報告が少なかったこと、厚生運動を所管する厚生省の大臣と次官、産業界の指導者の大会不参加を指摘し、厚生運動が未だ国策として推進されず、産業界の関心も低いことを示唆していた<sup>39)</sup>。

## 5. 興亜厚生大会（1940年）

### 5-1. 開催の経緯及び趣旨

第二回大会の総会において、次回大会の開催地に大阪市が立候補し、この申請は満場一致で承認された。こうして、第三回大会は大阪市内で開催されることとなったが、大会が催される1940年は皇紀二千六百年にあたり、東亜新秩序建設が国家的課題となる時期であることから、第三回大会を主催する日本厚生協会と大阪市は同大会を興亜厚生大会として開催するに至ったのであった<sup>40)</sup>。そして興亜厚生大会は、以下のような趣旨の下で開催された：

聖戦四年今や東亜新秩序建設ノ大業ハ着々其ノ実ヲ挙ゲツツアルトキ我等一億同胞ノ責務愈々重大ヲ加ヘ総力戦体制ノ徹底更ニ緊要ナルモノアリ

此ノ秋ニ当リ我国ノ現状ヲ觀ルニ国家興隆ノ根幹タル人的資源ハ遺憾ナラ甚ダ憂フベキ傾向ニ在リ特ニ銃後産業ノ推進力タル労働力ノ低下ハ之ヲ其ノ儘ニ放置センカ或ハ興亜ノ大業完遂ニ由々シキ影響ヲ及ボス惧レナシトセザル状態ニシテ之ガ対策ノ確立ハ国家緊切ノ要務ナルハ言ヲ俟ズ

而シテ之ガ人的資源ノ培養強化ニ当タリテハ為スベキ方策多々アリト雖モ就中国民生活ノ刷新ヲ図リ心身ヲ鍛鍊シ適当ナル休養健全ナル慰楽ヲ勸奨シ情操ヲ陶冶シ以テ旺盛ナル精神ト強健ナル身体ヲ育成スル厚生運動ノ実践コソ時局下国民活動力拡充ノ為最モ適切有効ノ方策ナリト信ズ

茲ニ鑑ミル所アリ一昨年春政府当局始メ各方面ノ協力ニ依リ日本厚生協会設立セラレ次イ

デ大阪市ニ於テモ大阪市厚生協会ノ結成ヲ見タルガ爾來各方面ニ亘リ国民厚生運動ノ普及実践ニ力メツツアル時恰モ紀元二千六百年ノ聖歳ヲ迎ヘ此ノ意義深キ年ヲ記念シテ仲秋ヲトシ大阪市ニ於テ興亜厚生大会ヲ開催シ日本全国ハ勿論滿州国、中華民國ヲ始メ遠ク隣邦友邦諸国ノ同志ヲ糾合シテ或ハ本運動ノ討議ニ或ハ其ノ実践ニ一段ノ研究並ニ發展を図リ益々銃後奉公ノ誠ヲ致スト共ニ併セテ我国厚生運動ノ真髓ヲ弘ク世界ニ顕揚スルハ洵に時宜ヲ得タル快挙ト謂フベシ  
茲ニ興亜厚生大会開催ノ趣旨ヲ明カニシテ各位ノ深甚ナル理解ト絶大ナル協力ヲ乞フ次第ナリ<sup>41)</sup>

「東亜新秩序建設」のための「聖戦」を支える人的資源が憂慮すべき状況にある中で、「旺盛ナル精神ト強健ナル身体ヲ育成スル厚生運動ノ実践」は「人的資源ノ培養強化」にとって「最モ適切有効ノ方策」であると日本厚生協会と大阪市は見做していた。こうした信念の下で、彼らは「紀元二千六百年」という意義深き年を記念して、日本各地からだけでなく、隣邦・友邦諸国の厚生運動関係者も招待し、厚生運動の討議・研究を図ることによって、銃後から「人的資源ノ培養強化」に寄与し、さらに日本の「厚生運動ノ真髓ヲ弘ク世界ニ顕揚スル」ことを意図したのであった。「東亜新秩序建設」のための「聖戦」や、日本の「厚生運動ノ真髓ヲ弘ク世界ニ顕揚スル」ことなど、新たな表現や意図が加わっているものの、興亜厚生大会の開催趣旨は、第一回や第二回大会のそれとほぼ同様であった。

### 5-2. 大会参加者、参加国

興亜厚生大会には、日本厚生協会会員200名、大阪市厚生協会会員880名、その他国内からの参加者600名、樺太5名、朝鮮6名、関東州3名、満州国50名、中国華北15名、中国華中9名、蒙疆6名、泰国13名、印度13名、蘭印5名、ビルマ7名、比律賓4名、アフガニスタン2名、ドイツ2名、イタリア2名と、11カ国から約2000名が参加し、「興亜」を冠した大会名と、日独伊三国軍事同盟が締結された時代状況に沿う大会となった<sup>42)</sup>。以下に示す演技プロ

グラムの参加者約3万人を含めると、大会参加者は約3万2000人に及ぶ。

### 5-3. 大会日程

興亜厚生大会には、第一回と第二回大会でも行われた「講演会」、「総会」、「分科会」、「演技」とともに、「大会決議起草委員会会議」、「日独伊厚生大講演会」、「優秀職場視察」などのプログラムが新たに加わっていることが特徴的である。

### 5-4. 講演会及び分科会での体育活動に関する言及

総会特別講演において、厚生次官の児玉政介は「健全な身体と精神を培養致して、所謂生産

性の向上」を図ることによって、「日本の産業を発展せしめ、国力を強化」することに厚生運動の意義があると説き、心身鍛錬の重要性を主張した。そして日本厚生協会会長の伍堂卓雄も「相互提携の全体主義観念に転向し、朗かなる精神を以て、犠牲と苦痛に耐へ得るが如くに、身心の鍛錬」を行うことが「皇道厚生運動」と定め、児玉と同様に心身鍛錬を重視していた<sup>43)</sup>。

しかし分科会では、体育活動による心身鍛錬以上に、厚生施設の拡充、厚生運動の指導者の養成、休日の増加、地域的、職能的な厚生組織の整備など、余暇善用のための前提条件を整備することが前回大会の分科会以上に求められていた<sup>44)</sup>。

第一回から三回大会の講演ではいずれも心身

表7 興亜厚生大会日程

日	時	催物	場所	内容
10月16日	午前9時-	開会式	中央公会堂	
	午前10時25分-	総会	同	
	午後1時30分-	演技	榎原神宮外苑野外公堂	奉納学童体錬大会
	午後3時30分-	大会決議起草委員会会議	歌舞伎座	
	午後5時30分-	市長招待観劇会	歌舞伎座	
11月17日	午前9時-	総会特別講演	中央公会堂	
	午前10時-	第一～第三分科会	同	興亜と厚生運動 国家と厚生運動 農村と厚生運動
	午後1時-	演技	甲子園球場	甲子園 厚生大運動会
	午後5時-	大会決議起草委員会会議	新大阪ホテル	
	午後6時-	日独伊厚生大講演会	中央公会堂	
11月18日	午前9時-	第四～第六分科会	中央公会堂	職場と厚生運動 都市と厚生運動 家庭と厚生運動
	午後2時-	優秀職場視察(第三班)	日本紡貝塚工場	
	午後1時30分-	分科会報告者座談会	新大阪ホテル	
	午後6時-	国際厚生の夕	宝塚大劇場	
11月19日	午前9時-	総会	中央公会堂	
	午前10時-	閉会式	同	
	午後1時30分- 午後2時30分-	優秀職場視察(第一班)	住友篤信青年学校 大阪瓦斯本社	
	午後1時30分- 午後2時30分-	優秀職場視察(第二班)	市立機械工訓育所 鐘紡淀川工場	
	午後2時-	演技	中之島公園 グラウンド	市民厚生大行進
	午後6時-	演技	中央公会堂	市民厚生の夕
11月20日	午後1時-	優秀職場視察(第四班)	大日本麦酒 吹田工場	

出典：興亜厚生大会事務局編（1941）紀元二千六百年 興亜厚生大会誌、興亜厚生大会事務局、17-18

頁より作成

鍛錬が厚生運動の中心に据えられ、体育活動が重視されていたのに対し、分科会では回を重ねる毎に、体育活動による心身鍛錬ではなく、それを実施するための前提条件の整備がより重視されるようになった。

#### 5-5. 演技プログラムにおける体育活動

興亜厚生大会では演技プログラムとして、奉祝学童体錬大会、甲子園厚生大運動会、市民厚生大行進、市民厚生夕が催された。

奉祝学童体錬大会は10月16日午後1時半から橿原神宮外苑野外公堂で催され、大阪市の児童1万人が参加した。此の大会の様様を『厚生日本』は次のように報じている。

生魂、田邊、堂島校生徒の「薙刀術基本体操」－桃園、本田、精華、大寶、天下茶屋校の「相撲道基本体操」－豊崎第一、阿部野、堂島、中本校の「剣道基本体操」－。次いで、参加者全員のスタンド体操が和やかに展開され、愛国行進曲の斉唱があり、此の歌につれて汎愛、北大江、御津、木川校の行進遊戯が行われ、最後に廣教、中之島、生魂、常盤校の「柔道基本体操」があつた。之等の間を縫って生魂小学校長園部氏の薙刀術、豊島第一小学校長村氏の剣道模範形或は学童の大日本国民体操等が点綴されたが、何れも見事な出来栄で、詰めかけた会場内は、暫し拍手喝采の鳴り止む暇もなかった<sup>45)</sup>。

10月17日午後1時から甲子園球場で開催された甲子園厚生運動大会には、奉祝学童体錬大会を上回る「銃後青年男女二万人」が参加した。この大会では、全関西吹奏楽団による演奏行進、参加者全員による合唱とともに、大阪市の「工場・商店・百貨店等の男女青年労働者」、「男女中等学生、青年団員、市民体操指導者連盟員」によって表8のような体操が実施されている。

大阪市民厚生大行進は10月19日午後2時から行われ、行進には大阪市の警察管内警防団1000名、男子中等学校生徒4000名、大日本少年団関西支部団員250名、青年団員600名、市民体操指導者連盟員2000名、全関西吹奏楽団連盟プラスバンド300名が参加した。約8000名の大集団は全関西吹奏楽団連盟プラスバンドを先頭に四列側面縦隊の大集団を編成して中之島公園グラウンドを出発し、大阪市内を行進した<sup>46)</sup>。

そして同日午後6時から中央公会堂で市民厚生夕の催しが行われ、「銃後産業陣としない各小学校から男女合計六百名、十八団体」が参加した。ここでは、住友電気工業株式会社音楽部や大阪吹奏楽団連盟工場商店部による「軍艦行進曲」や「行進曲紀元二千六百年」などの合奏、参加者全員による「愛国行進曲」の合唱、大阪合唱団連盟による「我等は太陽民族」などの合唱、松下電気産業報国歩一会による剣舞、壽商店による連吟とともに、表9のような集団体操が披露されている<sup>47)</sup>。

表8 甲子園厚生運動大会の集団体操

体操名	演技者
行進遊戯二千六百年	女子中等
ラヂオ体操	一般市民
産業体操・日本晴	女子工場員
国民体操・鉄の力	男子商店員
大阪市青年団体操	各区中堅隊員
スタンド体操	全員
紀元二千六百年奉祝体操 婦人愛国の歌	百貨店女子店員
国民体操・作業体操	市民体操指導者
喜の黎明・産業日本の歌	男子工場員
集団体操	西六青年団

出典：厚生日本、1940年11月号、163-164頁より作成

興亜厚生大会の演技プログラムでは、第一回、第二回大会で実施された競技種目は行われず、合唱や合奏を除くほぼ全てが集団体操と集団行進で構成され、参加者も万単位の規模になった。演技プログラム全体が、上に示した文部省の通牒やそれと連動した厚生省の集団体操奨励政策により合致したものとなり、「多人数ノ参加シ得ル集团的体育行事」と化したのである。

#### 5-6. 大会に対する評価

興亜厚生大会について、日本厚生協会幹事の山田節男は、「一口に云へば、第三大会は大成功であったということに尽きる。興亜厚生大会の名をして辱しめない、実に堂々と且つ厳粛なるものであつた」と評価した<sup>48)</sup>。そして彼は所感として、大会の意義や重要性を大阪市民にある程度啓蒙・宣伝できたこと、大阪毎日新聞と大阪朝日新聞が大会を大々的に報道することによって、国民の厚生運動に対する認識を開拓し深めたこと、そして国策として重視されるべき厚生運動は中央政府自らがイニシアチブをとり、指針を示すべきであることを述べている<sup>49)</sup>。彼の言葉に従えば、厚生運動は未だ啓蒙の時代にあり、運動は中央政府ではなく、日本厚生協会という一社団法人や、大都市を中心とする各

自治体によって推進されている状態であったと言える。

#### 6. おわりに

日本厚生協会が掲げた厚生運動の目的は、余暇の善用によって心身を鍛錬し、情操を陶冶することであった。同協会と東京、名古屋、大阪の各都市はこの目的を念頭に置きつつ、厚生大会を開催し、各大会では「人的資源ノ培養強化」という国家的課題に寄与する厚生運動の方策について討議・研究することに重きが置かれたことが大会の開催趣旨からみてとれる。

厚生運動の方策について討議・研究する場となったのは各大会の講演や分科会であった。第一回から三回大会までの講演ではいずれも心身鍛錬が厚生運動の中心に据えられ、体育活動が重視されていたのに対し、分科会では回を重ねる毎に、体育活動による心身鍛錬ではなく、それを実施するための前提条件の整備が強調されるようになり、講演と分科会で厚生運動の方策に関する意見の乖離が見られた。このことから、厚生大会では体育活動が必ずしも厚生運動の中心と見做されていなかったことが浮き彫りとなる。

しかし、厚生大会の体育活動は時局に呼応する形で推移していった。第一回大会の体育活動

表9 市民厚生会の夕の集団体操

体操名	演技者
相撲体操	大阪市本田精華小学校学童合同
産業歌体操	大阪高島屋
徒手体操転回運動	大阪市御津小学校学童
大日本国民体操	市民体操指導者代表(北区)
吟詠体操(暁の決死隊)	東洋紡績天満工場
日本晴(大阪市制定民謡体操)	宇治川産業報国会
タンブリング(人体建築)	伊藤万商店
紀元二千六百年奉祝体操	大日本紡績津守工場
興亜行進曲	鐘ヶ淵紡績淀川工場
錬成体操	日曜倶楽部
大日本女子青年体操	市民体操指導者代表(西淀川区)
日本の少女(女子保健体操)	大丸ゆかり会

出典：興亜厚生大会事務局編（1941）紀元二千六百年興亜厚生大会誌。興亜厚生大会事務局，92-94  
頁より作成

は国民精神作興体育大会に代表されるように、全体的に競技志向の強いものであった。しかし、第二回大会では前回よりも集団体操の比重が高まり、第三回大会の体育活動はほぼ集団体操と集団行進で構成され、3万人以上を動員する活動となっていたのである。こうした変化は、厚生大会の体育活動が、国民精神総動員運動下で出された文部省の通牒や、それに対応する形で展開された厚生省の集団体操奨励政策により合致したものになったことを示している。そして児童・生徒から工場労働者、商店従業員、青年団員などに至るまでより多くの国民を集団体操や集団行進に動員していったことから、国民の身体を体位向上のために統制してだけでなく、集団で一斉に同じ動きをすることによって国民意識を高揚させ、挙国一致の戦時体制に国民を組み込んでいこうとする日本厚生協会や、同協会を監督する厚生省の意図が読み取れる。

以上のことから、戦時下の厚生大会における体育活動は、集団体操や集団行進を中心とする余暇活動によって、より多くの国民の心身を戦時体制に適合する形で統制し、「人的資源ノ培養強化」に寄与していくことを目指していたと言える。

本研究では、日本厚生協会が主催した3つの厚生大会に焦点をあてたが、今後は満州で開催された東亜厚生大会（1942）や、都市単位で実施された厚生大会に着目していくことで、戦時下の厚生運動における体育活動の様相をより鮮明に描いていきたい。

## 注

- 1) 日本レクリエーション協会編（1966）日本レクリエーション協会二十年史。日本レクリエーション協会、26-33頁。
- 2) 日本レクリエーション協会編（1977）日本レクリエーション協会三十年史。日本レクリエーション協会、21-22頁。
- 3) 石川弘義（1983）「厚生の日」にみる厚生運動の歩み。コミュニケーション紀要1、67-69頁。
- 4) 藤野豊（2000）強制された健康 日本ファシズム下の生命と身体。吉川弘文館、41-42、46-48、72-75頁。
- 5) 今村嘉雄（1970）日本体育史。不昧堂出版、610-612頁。
- 6) 佐々木浩雄（2009）量産される集団体操—国民精神総動員と集団体操の国家的イベント化。坂上康博/高岡裕之編、幻の東京オリンピックとその時代 戦時期のスポーツ・都市・身体。青弓社、430-432頁。
- 7) 木村吉次（1973）戦前・戦時下の学校体育行政。岡津守彦編、教育課程 各論。東京大学出版会、373-374頁。
- 8) 成田十次郎（1975）戦時下の学校体育とスポーツ。世界教育史研究会編、体育史。講談社、287頁。
- 9) 磯村英一（1939）厚生運動概説。常盤書房、62頁。
- 10) 厚生省二十年史編集委員会編（1960）厚生省二十年史。厚生省創立20周年記念事業実施委員会、107-108頁；厚生省五十年史編集委員会編（1988）厚生省五十年史 記述篇。厚生問題研究会、395頁。
- 11) 大日本体育協会が構想する「国民体育」とは、全ての国民が「皇国民としての完全無欠な心身を錬成」するために「基本体力と国防技能を練磨修得」するものであり、その具体的内容として同協会は、1) 体力テスト、2) 「国防スポーツ」、3) レクリエーション運動、4) 「アルバイト・ディーンスト」、5) 明治神宮体育大会、6) 指導者の養成などを取り上げ、検討していた。高岡裕之（2009）大日本体育会の成立。坂上康博/高岡裕之編、前掲書、200、210-212頁。
- 12) 磯村英一（1939）前掲書、50頁。
- 13) 同上。
- 14) 日本厚生協会編（1939）第一回日本厚生大会報告書。日本厚生協会、9頁。
- 15) 高岡裕之編（2001）資料集 総力戦と文化 第2巻。大月書店、3頁。
- 16) 東京朝日新聞。1938年11月2日付、夕刊、2面。
- 17) 日本厚生協会編（1939）前掲書、243-248頁。
- 18) 同上書、248頁。
- 19) 同上書、227-242頁。
- 20) 同上書、209-221頁。
- 21) 東京朝日新聞。1938年11月2日付、11面。読売新聞。1938年11月2日付、夕刊、2面。



- 22) 磯村英一（1939）前掲書、59-60 頁.
  - 23) 同上書、60 頁.
  - 24) 東京朝日新聞. 1938 年 11 月 7 日付、8 面.
  - 25) 磯村英一（1939）前掲書、60-61 頁.
  - 26) 日本厚生協会編（1939）前掲書、222 頁.
  - 27) 名古屋市編（1940）第二回日本厚生大会会誌. 名古屋市、1 頁.
  - 28) 同上誌、225-233 頁.
  - 29) 同上誌、233 頁.
  - 30) 名古屋市編（1940）前掲誌、209-223 頁.
  - 31) 同上誌、181-190 頁.
  - 32) 厚生の日. 1940 年 1 月号、86 頁.
  - 33) 同上誌、86-87 頁.
  - 34) 名古屋市編（1940）第二回日本厚生大会会誌. 名古屋市、200 頁.
  - 35) 浜田義明編（1939）学校体育運動に関する法令並に通牒. 目黒書店、274-276 頁.
  - 36) 厚生の日. 1940 年 1 月号、87-88 頁.
  - 37) 同上誌、88 頁.
  - 38) 同上誌、91 頁.
  - 39) 同上誌、92-93 頁.
  - 40) 興亜厚生大会事務局編（1941）紀元二千六百年興亜厚生大会誌. 興亜厚生大会事務局、2 頁.
  - 41) 同上誌、8-9 頁.
  - 42) 同上誌、16 頁.
  - 43) 興亜厚生大会事務局編（1941）前掲誌、111-122 頁.
  - 44) 同上誌、58-76 頁.
  - 45) 厚生の日. 1940 年 11 月号、162-163 頁.
  - 46) 同上誌、172 頁.
  - 47) 同上.
  - 48) 厚生の日. 1940 年 12 月号、128 頁.
  - 49) 同上誌、128-130 頁.
- ※本研究は、平成 22 年度体育科学系研究プロジェクトの支援を受けて行なった研究であり、筑波大学体育史研究室の演習における共同研究の成果の一部である。